

講義名	対2)教養特講Ⅰ（東洋史）				授業形態	
担当教員	小野 達哉	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング

主題と概要
1 0 世紀から 1 9 世紀にかけての中国は、伝統中国あるいは近世中国と呼ばれ、現在までつづく社会・文化の原型が形作られた時代である。この講義では、こうした中国伝統社会のあり方について、まず第一に社会・経済面から、第二に政治・文化面から学んでゆく。またこれに加えて、中国は経済的・文化的な先進地域として、周辺諸国との交流を通じ、東アジア文化圏を長きにわたって形成してきた。この講義ではさらに、東アジア諸国に中国の制度・文物がどのように影響されたのかという点から、対外関係の枠組み・文化交流のあり方についても学ぶ。これらの講義を通じて、学生諸君には最終的に、中国がどのようなタイプの近代の方向に向かってゆくか、そのイメージまで、描んでもらいたいと考えている。

到達目標
①中国史の基本事項について理解し説明できる。 ②東アジア史上の文化交流について理解し説明できる。 ③中国的伝統のあり方について理解し説明できる。 ④中国の近代化像について理解し説明できる。

提出課題
毎回授業時に実施する小テスト

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却するつもりである。

評価の基準
毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。毎回授業時の課題提出だけでなく、学期末に定期試験を実施するので、その旨注意されたい。

履修にあたっての注意・助言他
この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。ただし、東洋史に限らず、日本史・西洋史など歴史全般に関心を持ってもらいたいと思う。

教科書
.使用しない.

参考図書
.なし.

その他
講義ではプリントを使用する。参考文献は授業時に随時指示する。

授業計画
【第1回】 テーマ：伝統中国社会の原型① 内容：中国史における南北 【第2回】 テーマ：伝統中国社会の原型② 内容：農村の長期的変化 【第3回】 テーマ：伝統中国社会の原型③ 内容：都市と商業の成長 【第4回】 テーマ：伝統中国政治の原型④ 内容：経済発展のパターンとトレンド 【第5回】 テーマ：伝統中国政治の原型① 内容：科挙と士大夫社会 【第6回】 テーマ：伝統中国政治の原型② 内容：皇帝と統治システム 【第7回】 テーマ：伝統中国政治の原型③ 内容：皇帝と官僚・軍隊 【第8回】 テーマ：伝統中国政治の原型④ 内容：士大夫の社会と文化 【第9回】 テーマ：対外関係と文化交流① 内容：朝貢と互市①朝貢の概念 【第10回】 テーマ：対外関係と文化交流② 内容：朝貢と互市②互市の概念 【第11回】 テーマ：対外関係と文化交流③ 内容：朝貢体制と朝鮮・琉球・ベトナム 【第12回】 テーマ：伝統中国の変革① 内容：開港と対外貿易 【第13回】 テーマ：伝統中国の変革② 内容：中国地域社会の実貌 【第14回】

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
【第1回～15回】 ①予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度） ②復習：プリントの見直し、穴埋め内容の確認をする。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」（1）～（5）の習得を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。

実務経験の有無及び活用
なし

備考
なし